

平成三十一年度入学試験問題（一次）

国語

平成三十一年一月二十六日

十時～十一時

〈 全体的な注意事項 〉

- 一 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けないでください。
- 二 この冊子の本文は、二十二ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所などがあつた場合には申し出てください。
- 三 試験開始とともに、解答用紙の指定欄に受験番号・氏名を記入し、さらに解答用紙のマーク欄に受験番号をマークしてください。
- 四 解答は解答用紙の所定の解答欄に記入してください。
- 五 やむを得ずトイレに行く場合や質問がある場合には、無言で手をあげ、試験監督者の指示に従ってください。
- 六 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。持ち帰った場合は、失格となります。

〈 マーク記入上の注意事項 〉

- 一 解答は各設問ごとに指定された数だけ選び、該当する記号を塗りつぶしてください。
- 二 解答には、HBの鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 三 訂正は消しゴムできれいに消してください。

第一問

この箇所については著作権上の都合により公開しておりません。

この箇所については著作権上の都合により公開しておりません。

この箇所については著作権上の都合により公開しておりません。

この箇所については著作権上の都合により公開しておりません。

問一 傍線部1「星座の話をしましよう」とあるが、筆者は「星座の話」をすることによってどういうことを言おうとしているのか、その

説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

1

- ① テレビを介した視覚情報の取得が当たり前になると、その効果が大きいだけに、ものを見る自由が奪われ、想像力や創造力を発揮しにくくなってしまおうということ。
- ② 古来人間は、自らの想像力によって普通は見えないはずの星座を創造してきたが、マスメディアが進展した現代では、そうした営みが不可能になってしまったということ。
- ③ テレビの提供する情報によって現実が構成されるようになると、存在しないものを自由に思い描く人間の知的営みは徐々に衰退するほかなくなってしまうということ。
- ④ 想像力や創造力という人間の能力とテレビという機械的なメディアが有している機能とは、本来両立可能であり、いずれかを選択的に用いるべきではないということ。
- ⑤ 見る自由を束縛するテレビというメディアは、今後インターネットの普及で衰退するだろうが、その功罪については今の時点ですっかりと検討しておかねばならないということ。

問二 空欄 ・ に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしな
れ。

- ① 現在の報道はやっていませんが
- ② かつての報道はそうでした
- ③ 報道のされ方にもよりますが
- ④ 真の報道とは別物だとしてもです
- ⑤ 報道する側はそう思っているはずだ

- ① 患者さんの要望を治療者が真に受けとめているか否かの問題
- ② 治療の結果やその有効性に関わるごく実践的な課題
- ③ 私たち治療者の倫理観として絶対に必要な感覚
- ④ 治療者個々の判断に委ねられるべき判断
- ⑤ 治療者各人に課された論理的要請

問三 空欄 ～ には「表」と「裏」のいずれかが入るが、その中で「裏」が入る箇所はいくつあるか。次の①～⑤のうち
から一つ選び、マークしなさい。

- ① 1箇所
- ② 2箇所
- ③ 3箇所
- ④ 4箇所
- ⑤ 5箇所

問四 傍線部2「別の見方をすれば、表に対する裏として同時に求められているものであると思う」とあるが、これはどういうことを

言ったものか、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。 5

① 臨床心理学の人間の内面を取り扱う手法とマスメディアが社会的な問題を追及する手法とを統合することによって、両者の取り組みの些末な違いを越えて、人間社会が抱え持つ問題を解決することができるということ。

② 民主主義やヒューマニズムを社会に根づかせるという点でテレビにはテレビの役割があるが、今後精神分析もそうした目標を自らの手法のうちに組み込むことを通して、より研究の幅を拡げていく必要があるということ。

③ マスメディアが民主主義やヒューマニズムという公的な精神を涵養し、それだけでは捉えきれない人間の内面の問題を臨床心理学が取り扱うという点で、両者はともに人間社会にとって必要なものであるということ。

④ 臨床心理学や精神分析が人間の隠された深層心理を扱うのと同様に、テレビに代表されるマスメディアは社会の病理を解明することを目的としているのだから、両者は協同しうる可能性を有しているということ。

⑤ 臨床心理学はヒューマニズムの精神を問題としてきたが、そうした個別領域を対象とするだけでなく、マスメディアのあり方を参考に、民主主義的な精神のあり方についても研究していかねばならないということ。

問五 傍線部3「だから、私は心のあるところに戻りたかった」とあるが、そのときの筆者の心情を端的に示す語として最も適当な

ものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。 6

- ① 憧憬 ② 畏怖 ③ 悲哀 ④ 憤怒 ⑤ 後悔

問六 次のイ～ホについて、本文の内容と合致するものは①に、合致しないものは②に、それぞれマークしなさい。

イ 筆者が自らの最終授業をテレビに公開したのは、かつて抱いたメディアへの批判的な思いが払拭されたことを示すためだと考えられる。 7

ロ 人間の内面心理の分析を仕事としてきた筆者は、マスメディアのなかでは人間の想像力に依拠する度合いの高いラジオのあり方を好んでいる。 8

ハ テレビ的なコミュニケーションのあり方に対して筆者はその役割を認めながらも、精神分析医としての仕事柄から肯定的な評価を差し控えている。 9

ニ テレビは不特定多数の人間のありようを取り扱うが、筆者が従事する精神医学ではあくまでも特定の患者の私的な心の「秘密」を対象にしている。 10

ホ 筆者は見えないものを想像力で捉えることができる人間のあり方に着目し、それが動物とは異なる自由な社会の形成に繋がったとみなしている。 11

この箇所については著作権上の都合により公開しておりません。

この箇所については著作権の都合により公開しておりません。

この箇所については著作権上の都合により公開しておりません。

この箇所については著作権上の都合により公開しておりません。

問一 空欄 a へ f に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。

- | | |
|---|----|
| a | 12 |
| b | 13 |
| c | 14 |
| d | 15 |
| e | 16 |
| f | 17 |
- ① 慄然りつぜん
② 鮮烈
③ 落胆
④ 融和
⑤ 融解
⑥ 激痛
⑦ 沈静
⑧ 悪寒

問二 空欄 X ・ Y に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしな

れこ。

X

18

- ① 自然のリズムは人間の内なるリズムと同質に見える
- ② 外的なリズムと内的なリズムは異なる次元で認識すべき
- ③ 私の外なる自然のリズムも内なるリズムも同等に不可欠である
- ④ あらゆる生命を包み込んでいる自然のリズムが優先されるべき
- ⑤ 類としての人間というより大きなリズムが外部に存在している

Y

19

- ① 私の身体の輪郭は生理的身体の輪郭とほぼ一致する
- ② 私が実感する身体より生理的身体の方が大きく感じられる
- ③ 私の身体と生理的身体が重なり合う領域は限りなく少ない
- ④ 私が実感する身体より生理的身体の方が直接的に感じられる
- ⑤ 私の身体の外郭が生理的身体のそれより大きいことは自明だろう

問三 傍線部1「あの『共感』という感覚」とあるが、「共感」に関する説明として不適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。 20

- ① 純粹に受動的な感覚として恣意的に消去できない実感とは異なり、注意を他に転じることで相当程度打ち消すことができる観念的な性格をもつ感覚である。
- ② 身体にとって生得的な実感とは異なり、経験の蓄積によって培われる後天的な能力であり、社会の文化による影響も受けながら育成される感覚である。
- ③ 実感のありようを考える上で、性質が全く異なるものと比べても意味がないので、実感と共通の性質をもつがゆえに比較する対象として適切な感覚である。
- ④ 個の身体に根ざす実感とは異なり、他者の痛みや苦しみをわがことのように感じられる能力として、極度に閉鎖的な私という存在に社会性をもたらす感覚である。
- ⑤ 同情や友愛といった感情ではなく心理学でいう感情移入に近いものであり、理性的な判断に基づいて生じるのではなく、ほとんど反射的に身体を直撃する感覚である。

問四 傍線部2「面白い傍証だが」とあるが、ここで「傍証」とはどういうことを言ったものか。その説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

21

- ① 他者への共感がどれほど私の身体感覚を刺激したとしても、私の内部感覚が直接に感受する刺激に比べれば、切実さの度合いにおいてはるかに及ばないという評価を、脳の痛覚系の研究成果が客観的に証明しているということ。
- ② 実感も共感も脳の痛覚系の回路から発するという脳科学の知見は、直接的な実感と間接的な共感を比較しようとする考え方で若干の齟齬そごをきたすので、両者を比較検討する際にその知見の適用を一時的に保留するということ。
- ③ 感覚の切実さがどれほどのものを明らかにするには、実感と共感の差異性や親近性を検討することが適切な方法であるという考え方を、脳科学における痛みの実感と共感に関する知見が間接的に補強しているということ。
- ④ 感覚の切実さを検討する際に、自身の苦痛と他者の苦痛への感情移入を具体例として取り上げたが、こうした論証の仕方は、実感と共感を痛覚系の回路を通じて分析した脳科学の研究に基づいたものであるということ。
- ⑤ 実感も共感も脳の痛覚系という同一の回路を通じて感受されるという脳科学の知見は、両者の違いは切実さにおける程度の差にすぎず、いずれも内部感覚の直接性に基づいているという見解と、ぴったり符合しているということ。

問五 傍線部3「皮肉にも問題はにわかには複雑になる」とあるが、これはどういうことを言ったものか。その説明として最も適当な

ものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

22

- ① 私という存在を支える実感の直接性は、共感と比較されることでその独自性は明確になるが、そうした実感の直接性のみで身体を把握しようとすると、身体の観念的な輪郭と物理的な輪郭との差異が曖昧になってしまうということ。
- ② 私の身体を実感の直接性を介して認識しようとすると、外部からの侵襲をどの程度知覚できるのか、あるいは他者の攻撃からどのようにして防御するのかなど、私の独立性を揺るがさまざまな問題に直面し混乱してしまうということ。
- ③ 私という存在が外界や他者と隔絶していることの根拠として見なされている、私の内部感覚の直接性は、それによって自らの身体のあるようを認識しようとすれば、むしろ私の輪郭の閉鎖性を突き崩す根拠にもなってしまうということ。
- ④ 自然のどのようなリズムとも区切られた私という存在は、物理的には外界や他者と一線を画する明確な輪郭を感じているが、その感覚を直接的な実感で補強しようとすると、かえって身体の輪郭が曖昧になってしまうということ。
- ⑤ 私の身体を内部感覚の直接性を介して認識しようとすると、身体の輪郭は流動的で曖昧なものとして感じられるのに対し、身体を単なる物理的な次元で認識しようとすると、身体の輪郭は安定的で明瞭なものとして把握できるということ。

問六 傍線部4「世界の中心に座を占める私の特権性」とあるが、これはどういうことを言ったものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

23

- ① 個物の一種として特別に外界から区切られた強固な閉鎖体である私という存在は、生のリズムにおいて過去・現在・未来を貫く同一性を保持しており、自然や他者といった外部のリズムからは超越した存在と見なされているということ。
- ② 外界の変化とは隔絶した内的律動に貫かれながら生きている「私」は、時の流れにも影響されない徹底した同一性を、社会に要請されかつ自らも積極的に担い続ける存在として、世界の根底を支える強固な土台と見なされているということ。
- ③ 一個の生命体として独自の内的リズムを持ち、他者とは隔絶した自我や主観を備えた存在として自然と対峙しつづけ、近代的な理性に基づき社会や文化を現在の水準にまで引き上げてきた歴史の担い手と見なされているということ。
- ④ 外部における昼夜や四季のリズムとは隔絶した心身の内的リズムに貫かれた私という存在は、自然のリズムを対象化し解明しつつ、他者の内的リズムに対する共感力を介して、人間の歴史的なリズムをも類推できると見なされているということ。
- ⑤ 外的自然が包括的なリズムに貫かれているのに対し、生命体の内的リズムは個々それぞれに異なっているが、近代的理性を備えた人間のみが他の存在に共感を抱くことで、個として自立しつつも他者との共同性を形成し得たと見なされているということ。

問七 次のイ～へは、本文の内容や構成に関して述べているが、説明として適切なものは①に、不適切なものは②に、それぞれマークしなさい。なお、①～⑱は段落番号である。

イ 一回限りの私の生のリズムには、自然の循環的なリズムに比べはるかに強い切実さがあり、理想的な藝術作品が奏する至高

のリズムのように、それを感じた時には深い感動がもたらされる。 24

ロ 身体が何らかの外的な刺激を感じた時、そこには多少の価値判断が下されていることもあり、刺激に対する反応が単なる反射的なものか知的な営みが含まれたものかを区別するのは困難である。 25

ハ 私が身体に受けた痛みは直接的なままなまじさを持っているが、間接的にしか認識できない他者の痛みは、対人関係のなかで蓄積された経験に基づき、想像力を介することではじめて感受できる。 26

ニ ①では私をめぐる問題提起がなされ、②～⑤では私の観念の歴史的経緯が紹介され、⑥～⑫では実感と共感の比較がなされ、これを受けて⑬～⑱では私の特権性が否定されている。 27

ホ ①～⑤では私という存在の特権性を紹介し、⑥～⑨では私の内部感覚の曖昧さが指摘され、これを受けて⑩～⑱では実感と共感の比較を通じて私の身体を認識することの困難さが強調されている。 28

ヘ ①～⑥では自明とされる私に疑問が提示され、⑦～⑱では実感と共感の比較を通じて私のありようを検討し、これを受けて⑰・⑱では実感が私の存在の根拠とは言い難いことが示されている。 29

第三問 以下の問い（問一～問五）に答えよ。

問一 次のA～Dについて、傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 利益を社会にカ|ン|ゲ|ンする。 30

- ① カ|ン|キ|扇をまわす。
- ② 問題意識をカ|ン|キ|する。
- ③ カ|ン|レ|キを迎える。
- ④ カ|ン|イ|保険に入る。
- ⑤ 相手のカ|ン|ゲ|ンに惑わされる。

B 権力をイ|ジ|する。 31

- ① イ|ド|の高い国へ行く。
- ② イ|シ|を曲げない。
- ③ メイ|イ|を探し求める。
- ④ 全権をイ|ニ|ンする。
- ⑤ 食物セ|ン|イは身体にいい。

C 変化の兆しはケ|ン|チ|ョ|だ。 32

- ① ケ|ン|メ|イな判断を下す。
- ② ケ|ン|ビ|鏡で観察する。
- ③ 選手が監督をケ|ン|ニ|ンする。
- ④ 自己のケ|ン|カ|イを発表する。
- ⑤ 鏡をケ|ン|マ|する。

D 絶大な権力にイ|ソ|ンする。 33

- ① 彼の意見にイ|ソ|ンはない。
- ② 彼のようにア|ン|イ|な道は選ばない。
- ③ 彼のためにイ|ロ|ウ|会を開く。
- ④ 彼に仕事をイ|ラ|イ|する。
- ⑤ 彼を前にしてイ|ギ|を正す。

問二 次のA～Cの空欄には同じ漢字が入る。その語を、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A □ 繩 □ 縛

34

B 唯唯 □ □

35

C 以 □ 伝 □

36

- ① 自 ② 一 ③ 諾 ④ 真 ⑤ 心 ⑥ 言

問三 次のA～Cの外来語の意味として最も適当なものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A ステレオタイプ

37

B ジレンマ

38

C エキゾチシズム

39

- ① 板ばさみ ② 紋切り型 ③ 郷愁 ④ 桃源郷 ⑤ 異国情緒 ⑥ 禁忌

問四 次のA～Cの空欄に入る言葉を、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

これまでは、人間の生存にとって非常に重要な意味をもつ〈呼吸系・循環系・神経系という三つのシステム〉すべての機能停止をもって死とみなし、①呼吸の停止・②心拍の停止・③瞳孔の散大という三徴候によって死亡判定が行われてきました。この三徴候を迎えた身体は不可逆的に死に至り、蘇生の可能性はないと考えられたわけです。ちなみに、**A**という用語は、そうした考え方やあり方を象徴的に示すものとして受けとめられてきました。ところが現在では、人の死を**B**とみなす考え方があらわれ、それが少なくとも社会・政治的な次元では認められるようになってきています。こうした死の基準の変更は**C**を可能にするためのものであったとも言われていますが、いずれにせよ〈死の定義〉の問題は今後の大きな問題となってくることは言うまでもありません。

A

B

C

- ① 心臓死 ② 再生医療 ③ 植物状態 ④ 脳死 ⑤ 臓器移植 ⑥ 延命

問五 次のA・Bの言葉の用法として最も適当なものを、後の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 欺瞞

43

- ① 彼の欺瞞に充ちた言動に振り回されてきた。
- ② 自らを欺瞞することなど概念上ありえない。
- ③ 欺瞞しがちな社会のあり方に不満を抱いている。
- ④ どこまでも自分を反省的に振り返り欺瞞すべきだ。

B グローバル

44

- ① グローバルという言葉にはエスノセントリズムの響きがある。
- ② ナシヨナリズムはグローバル社会の追求を志向している。
- ③ グローバルな視点に立つて事をすすめていくべきだ。
- ④ グローバルな身体感覚を自分のものにしていこう。